５中工高第２２９７号
令和６年３月２５日

令和５年度　東京都立中野工科高等学校（定時制課程）学校経営報告

１　目指す学校

スクール・ミッション

「社会の一員として社会に貢献し、責任を重んずる勤労精神の育成」を教育目標とし、ものづくり教育や学習指導において、基礎学力の定着を図ります。系統的なキャリア教育に基づく進路指導の充実から、個性の伸長と自立心を育み、生徒の興味・関心を高めることで創造力を伸長させます。

スクール・ポリシー

（１）グラデュエーション・ポリシー

① 社会的自立の基盤となる判断力・行動力
② 就職活動および社会生活で必要とされる基礎学力
③ 産業界において基盤となる、工業分野の知識・技術と課題解決能力
④ 意欲・関心を持って学びに向かう力
⑤ 互いに尊重し協同していく力
⑥ 社会生活に欠かせない理解力・表現力

（２）カリキュラム・ポリシー

① 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本の定着を図る。
② 工業の専門性の充実を図り、資格取得や就職に耐えうる能力を養う。
③ キャリアガイダンスの充実を図り、コミュニケーション能力や社会性を養う。
④「体験」の実施により、自身のキャリアプランを考える能力と態度を醸成する。

（３）アドミッション・ポリシー

① 指導に素直に従い、社会生活で役立つ知識や技能を意欲的に取組んでいける。
② 誰とでも仲良くでき協力し合い、他人を思いやることができる。
③ 機械・食品工業に関する技術やものづくりが好きで、工業高校の実験・実習に積極的に取り組んでいける。
真に自立した社会人の育成を目指す。

目指す学校

本校は、真に自立した社会人の育成を目指す。 （１）挨拶を大事にし、職業人としての立ち居振る舞いができる生徒を育てる学校 （２）就職試験に合格できる学力の定着を図れる学校 （３）総合技術科の特色を生かし、教職員が学習指導、生活指導、進路指導、自立支援等に組織的に取り組む学校

２　具体的な学校像

（１）人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、いじめや体罰のない学校 （２）産業界や関係機関との連携を図り、ものづくりを通して社会に貢献していく人材を育てる学校 （３）社会人として必要な基礎的な知識・技能と読み書き計算の能力を着実に身に付けさせる学校 （４）社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身に付けさせる学校 （５）社会生活を送ることができる気力や体力、働く力を身に付けさせる学校

（6）基本的生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった生徒を育てる学校
（7）自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる生徒を育てる学校
（8）就職・進学に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
（9）教職員が一丸となって生徒に向き合い、必要な態度と能力を身に付けさせる学校
(10) 保護者や地域社会から信頼され、保護者及び地域社会と一体となった教育を推進できる学校
(11) 教育活動の円滑な実施に向け、自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
(12) 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと職務を遂行し、教育活動を行う学校
(13) 教職員の服務の厳正を図り、服務事故のない学校

3　中期的目標と方策

（1）中期的目標

①校舎の全面改築を計画的に進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持され、次代を担う工科高校を創設する。

②夜間定時制課程の工科高校として、学力向上と系統的なキャリア教育の４年間の全体計画を策定する。

③入学した全ての生徒の進路を実現するため、段階を踏んだ学習支援や関係機関との連携を図った自立支援等のプログラムを完成させる。

④定時制課程ならではの良さを中学生、保護者、地域にアピールし、入試倍率を向上させる。

（2）方策

①新校舎の完成を目指し、施設・設備に関する計画的な検討と備品管理を行う。

②地域の関係団体及び企業等、産業界のニーズを把握するとともに、東京都や東京都中小企業振興公社、東京都商工会議所等の協力を得て、技術交流やインターンシップを計画し、社会や産業界との連携を強める学校を目指す。

③夜間定時制課程設置の意義を踏まえ、カリキュラムマネジメントを実施し、教育課程の編成、校内規定の見直し、募集対策、広報活動等について着実に計画・実施する。

4 今年度の取組目標と方策

（1）学力と技術力の向上

①座学・実習においてＩＣＴ機器の活用により確実に学力、技術力を高める。キャリア・パスポートなどを利用したポートフォリオを構築させる。

②資格取得や検定試験合格への挑戦、各種競技会・展示会への参加、課題研究発表会でのプレゼンテーションなど、具体的な目標達成のための指導を継続して実施し、生徒のやる気を高める。

③生徒が意欲的・主体的に学べるよう授業内容、指導方法、学習評価の在り方を工夫・改善する。特に、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行う。

（2）中途退学者対応と規範意識の向上

①自立支援事業継続校として、不登校、中途退学者、再就職者への対応を組織的に進める。

②生徒の実態に応じた校内規定の見直しを進め、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。

（3）キャリア教育の充実

①４年間の系統的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。

②東京都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社や東京都商工会議所との連携による産業技術交流、インターンシップ等を実施する。

③工業系大学との協定等、大学進学への進路開拓を行う。

（4）生徒のチャレンジ支援

①ボランティア活動等を通して、地域社会に貢献することにより、達成感やボランティアマインドを育てる。

②部活動の活性化、地域行事への参加、各種資格取得への取組、研究発表大会への積極的なチャレンジ・参加等を奨励し、生徒の達成感と自信、新たなチャレンジ精神を醸成する。

（5）学習指導要領に沿った学力観への転換と教員の授業力向上

①ルーブリックの策定により、教科間の情報・意見交換を活発にする。

②全ての教科・科目にアクティブ・ラーニングを導入するとともに、教科・類型横断的な授業を開発し、カリキュラムマネジメントを学校全体で進める。

③同じ教科及び異なる教科各１回の相互授業観察を実施し、授業力の向上を図る。

④生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に活かし、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図る。

（6）成人年齢引き下げによる事故防止と主権者教育の充実

①成人年齢の引き下げによる生徒が事故に巻き込まれないよう、消費者教育等の充実を図る。

②生徒会選挙や中野区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身に付けるための活動を展開する。

（7）教職員の働き方改革と服務の厳正

①年間を通した職務のスケジュール化を図り、適切な進行管理の下、効率的に遂行する体制を構築する。

②「Scrap and Build」に努め、業務の効率化と諸会議のスリム化を進める。

③服務事故防止研修を計画的に実施するとともに、社会や他校での事故を教訓にして、服務事故防止を徹底する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
教務部	１．教育課程の適正な実施 ２．諸帳簿の適正な管理 ３．入選の適切な対応 ４．募集対策の充実 ５．広報活動の充実	１．各教科の協力を得て支障なく教育活動を行うことができた。 ２．間違えがないように互いに声を掛け合い、複数の教員で業務を実施した。 ３．入学者選抜業務に向けた事前準備を適正に進行した。 ４．近隣中学校、日本語学校、フリースクール等へ学校案内及び学校説明会等の案内を送付。学校説明会３回実施、さんだる相談会へ４会場に参加した。 ５．今年度はＨＰを７６回更新し、本校生徒の学校生活、学校案内等を定期的に更新した。
生徒部	１．規範意識の向上を目指した生活指導の充実 ２．中途退学者防止に向けた特別指導規定の見直し ３．防災教育研究指定校としての社会貢献活動の充実 ４．関係諸機関と連携した生活安全及び健康教育の実施 ５．給食指導の充実	１．学年、教科の協力により特別指導は１件、欠席、遅刻者数を減少させることができた。 ２．粘り強く継続的に指導できるように指導内容を検討し校内規定の見直しを実施した。 ３．地域外部機関と連携した年４回の避難訓練と防災訓練を実施。また地域の防災訓練へ参加し地域との連携を深めることができた。 ４．野方警察署と連携した交通安全教室、セーフティ教室、薬物乱用防止教室の実施。 大学病院医師による保健講話（がん教育）と栄養士による食育講話の実施。 ５．喫食率向上の取組として毎月の給食だより発行と残食率減少の取組として給食指導の実施。
進路部	１．４年間をとおしたキャリア教育の充実 ２．インターンシップの充実 ３．教職員の企業開拓 ４．就職試験に向けた取組 ５．定着率・離職率の調査の実施	１．ハローワークと連携し各学年の実態合わせた進路講話を７月、３月に実施できた。 ２．３学年のうち未就労者の１名が８月に３日間インターンシップ参加。その後部活動などに積極的に行動するようになり、変容が見られた。 ３．求人票を持参された担当者から景気動向や採用予定などの情報収集を行った。食品工業関連の求人についてハローワークと打合せを実施。 ４．就職希望者には、夏休みに集中指導を行い、９月末までに７５％の内定決定率であった。１０月末には１００％決定した。 ５．４月に就職した２名の内１名は学校に来校し、順調に仕事していることが確認できた。アルバイトの生徒も継続して就労していることが確認できた。
１学年	１．　遅刻・欠席をさせないための取り組み ２．保護者との連携 ３．就労活動の検討 ４．行事の活性化	１．入学当初からの継続した助言により、生徒の生活リズムを徐々に確立できている。年度末まで引き続き生徒への声かけを行っていく。 ２．必要に応じて保護者に連絡し、生徒の学校生活について報告・相談することで、生徒の支援につなげることができた。 ３．クラスのうち３名がアルバイトを行っている。アルバイトと学業を両立できるよう、次年度以降も継続的に指導を行っていく。 ４．文化祭をはじめ、様々な行事に学年全体で積極的に参加することができた。
２学年	１．　遅刻・欠席をさせないための取り組み ２．保護者との連携 ２．　進路に向けた意識付け ４．行事の活性化	１．体調不良による欠席が若干あったものの、年間通して出席状況は概ね良好であった。 来年度以降もアルバイトとの両立を意識させながら、生徒への働きかけを行っていく。 ２．生徒の状況に即して保護者への連絡を行うことで、学校における生徒の活動についての情報共有を行うことができている。 ３．外部模試の受験奨励を行ったほか、進路部・YSW と連携してどのようなことを大学で学びたいのかについての指導を行っている。次年度以降も継続する。 ４．各文化祭（中工祭）や生徒会活動、部活動などへの積極的な活動を推奨し、生徒もそれぞれの活動に全力で取り組むことができた。
３学年	１．　遅刻・欠席をさせないための取り組み ２．保護者との連携 ３．就労活動の検討 ４．行事の活性化	１．ＨＲを活用して、進路に紐づけた指導を継続的に行った。昨年度と比べ徐々に欠席遅刻数が減少している。 ２．保護者会や普段の電話連絡等で保護者と生徒情報の共有を行った。 ３．ＨＲでは全体に向けて進路活動の情報提供、面談期間には個別に進路計画を作成させた。生徒自身がどのような準備をすべきか考え始めている。 ４．地域のボランティアへの参加、中工祭では学年を横断した活動を行うことで、生徒が主体的に行事に取り組めている。
４学年	１．遅刻・欠席をさせないための取り組み ２．保護者との連携 ３．就進路活動 ４．行事の活性化	１．生徒の心身について SC や YSW、教職員全体と連携し、組織的に取り組めた結果、６名中、４年間皆勤１名、精皆勤２名となった。 ２．４年間電話連絡、保護者面談を実施した。修学旅行等の学年行事にも協力していただくことができ、無事に卒業式を迎えることができた。 ３．進路指導部やハローワーク等と連携し、生徒全員希望した進路に進むことができた。 ４．ホームルーム活動を活用し修学旅行や課題研究発表会等、生徒全員で取り組むことができた。
各教科	１．資格取得と検定受検の促進 ２．授業や実習における規範意識の向上 ３．授業力向上に関する取組み	１．基礎製図検定に２名合格、防災士３名合格、ICT プロシエンシー４級１名合格させることできた。今後も資格取得に向けた取り組みを継続していく。 ２．授業開始・終了時に挨拶を励行させ、授業中の机上に必要のないものを出させない指導を徹底させた。今後も継続して指導を実施する。 ３．研修センター、専門学校による授業向上研修会への参加、また全日制や他高校への授業観察等で授業改善ができている。 ＩＣＴ機器などを使った授業を８５％の教職員が実施した。今後も利用を促進しわかりやすい授業を実施する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
経営企画室	1．学校経営状況の把握と分析 2．学校経営参画の推進 3．適正な事務運営 4.施設・設備の保全管理 5.校舎改築準備の適正管理	1．学校経営状況の達成状況を検証し、必要な情報を収集分析することにより効果的な学校経営に資することができた。 2．教職員と連携し、行政視点をもって相互に課題の解決に取り組んでいる。 3．学校経営計画を把握し、根拠や規則に基づいた事務処理を行い、日常的に業務進捗確認の体制を築いてきた。引き続き業務の適正化を図っていく。 4．　設備点検を日常的に行い、劣化・破損・故障箇所の速やかな状況の整理と対応を行った。今後もこれを継続して行う。 5.校舎改築基本設計作業に遅滞がないよう適正な進行管理を行うことができた。
教育課程委員会	1．教育課程の編成 2．弾力的な教育課程の推進	1．令和６年度の教育課程の確認 令和６年度から教科「歴史総合」「地理総合」が実施される。 2．観点別学習評価の適正な実施に向けて 指導と評価の一体化に向けた校内研修及び教科会の実施。 観点別評価について、わかりやすいようにするため一部修正を行った。
図書運営委員会	1．図書館の運営に関する取り組み 2．生徒の図書館利用の向上の検討 3．受託者への適切な業務指示と法令を遵守した図書館運営	1．機械・食品工業の２類型が必要とする資料を、長期的視点で計画的に選書できている。改築工事も見据えた閉架書庫の整理を実施。 2．図書だよりを通じての読書啓発が成功し、来館者の増加に繋がっている。一方で三密回避の関係から、各教科での授業利用は低調である。 3．経営企画室と常時連携して、仕様書に基づいた図書館運営が出来ている。
給食運営委員会	1．担任や栄養士と連携した生徒の喫食率向上の検討 2．食物アレルギーに関する対策	1．栄養面を配慮した給食や生徒のニーズを踏まえた給食を提供することにより喫食率向上に取組むことができた。 2．健康調査・健康診断結果やアレルギー管理指導票に基づいて食物アレルギーに関する対策を行った。
学校保健委員会	1．生徒の健康づくりの推進 2．学校医等と連携した生徒の健康の促進	1．一斉健康診断結果・健康課題・生徒の状況を把握して学校保健計画を立案して実施した。 2．学校保健委員会で健康診断結果・健康課題について情報共有を行い課題解決のため検討した。
ITリーダー会議	1．一人１台端末に向けた準備 2．ＨＰに関する取り組み	1．デジタルサポーターと連携し Teams 校内研修を４月に１回、９月に１回実施した。 オンライン学習デーでは、全教員が Teams を活用して授業が実施された。 2．今年度は７６件のニュース記事投稿し、月平均のアクセス数は３０００件となった。 IT リーダーを除く、３割程度の教員がＨＰ更新を行えている。
業者選定委員会	1．業者選定に関する検討	1．９、１１月に実施し業者を適正に選定した。今後も適宜委員会を開催し公正な業者選定を実施する。
ＳＣ委員会・いじめ対策委員会	1．スクールカウンセリングに関する検討 2．いじめに関する検討 3．ＹＳＷに関する検討	1．月１回のＳＣ・いじめ対策委員会を実施して生徒情報を共有して生徒理解につなげた。全員面談を毎学期に実施した。 2．学期に１回いじめアンケートを実施して、ＳＣ面談等につなげている。結果については全職員で情報共有して方策を検討した。 3．YSW と SC、生徒部、進路部、各学年担任と連携して就労支援を適切に実施した。
学校サポートチーム	1．緊急時いじめ対応に関する検討 2．外部委員と連携方法の検討 3．ＳＣ・いじめ対策委員会との連携	1．週１回、SC には日常の授業なども見学していただきながら生徒の情報を共有して生徒理解につなげた。 2．今年度も緊急対応をするような案件は無かった。今後も外部委員との連携を密にしていく。 3．自立支援担当・教育相談担当・特別支援コーディネーターが連携して情報共有を行い支援の方法などを検討した。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
教科書選定委員会	1．教科書の調査研究 2．教科書の選定	1．新規発行された教科書全て調査研究を完了した。今後も本校生徒に適した教科書の採択に向けた調査研究を実施する。 2．教科書選定委員会を実施し、令和６年度使用教科書届けを提出し教育委員会に採択された。今後も継続して調査研究及び生徒の実態を踏まえ選定業務を適切に実施する。
防災教育委員会	1．学校安全計画に関する検討 2．地域と連携した防災教育の検討	1．９月と２月に防災教育推進委員会を開催し関係機関との連携の中で本校の学校安全計画に関する検討を行った。 2．野方消防署と中野区防災課と連携し、防災教育を実施することができた。来年度は、より多くの体験活動を実施し、防災に対する意識を高めさせる。
補助金審査委員会	1．補助金に関する検討 2．保護者対応	1．９，１２，１，３月に委員会を実施し、補助金申請者を了承した。今後も対象者に申請を促す指導を実施する。 2．保護者への周知を７月に実施し、その後は、審査会後に担任から保護者への周知を促した。今後も保護者と連携して申請を促す指導を実施する。
安全衛生委員会	1．職場における安全衛生に関する検討 2．職員の健康維持	1．毎月１回の委員会を開催し、産業医を中心に労働環境の改善ができた。 2．職員の健康診断結果や日頃の健康状況を把握し対応できている。
改築委員会	1．　旧校舎の解体、新校舎の建設について、 2．施設・設備の検討	1．毎週１回、改築に伴う会議を実施している。また、学校運営に支障がないように教職員に周知することができている。 2．新校舎に向けて、施設・設備に関する計画的な検討と備品管理を行っている